

開校記念日(5月1日)にあたり … 歴史と伝統の重み

根室実業学校・根室商業学校 沿革史より抜粋

明治36年、根室は、札幌、函館に次ぐ実力をもち町となり、政治、経済、交通の中心地となった。町民の要望として築港の完成、鉄道の敷設とともに中等教育機関の設置要望があげられる。

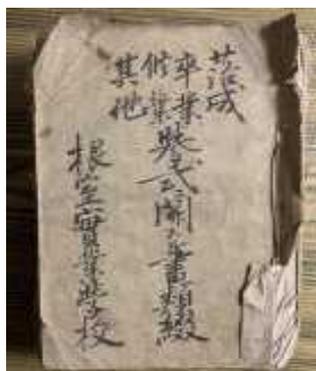
当時の道議会において、根室商業学校設置に関する議案が提出される。当時の根室は水産物の集散地となり、中国と直接、貿易も行われる機運にあり、商業学校の設置が要望される。

明治37年、商業学校設置に向けた活動が行われるが日露戦争の勃発で繰り延べとなった。その間、敷地並びに校舎の寄付などに奔走する。

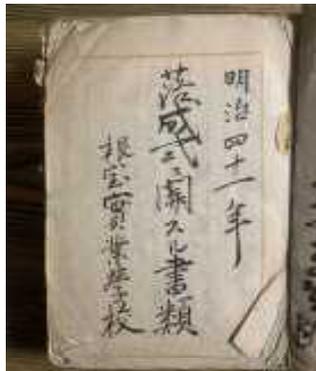
明治38年、根室は水産関係の地であることから水産学校設置の要望にも配慮して根室実業学校とすることとし、道議会への議案提出がなされる。その頃、釧路、旭川、小樽、空知、札幌などの学校に先んじて、小樽の学校とともに設置の第一次計画に入り、明治39年の開校が決定となる。

明治39年、4月に北斗小学校や花咲小学校で入学試験等が行われる。当時の入学生は50名。

明治39年、5月1日、北斗小学校において開校式を挙行する。また、新校舎落成式を明治41年5月1日に行う。



[写真1] 明治41年新校舎落成式に関する書類



[写真2] 開校当時の校舎

本校は、創設以来、幾多の変遷を経ながら100年以上の歴史を積み重ねてきた伝統校です。

生徒の皆さんには、根高生としての誇りを持ち、本校の校訓「敢為和協」(力を合わせて困難に打ち勝つ)、「堅実錬磨」(心と体を鍛え磨き、一步一步確かな歩みを続ける)を実践し、充実した学校生活を過ごすことを期待しています。